

2014年に向けての【学習アドバイス】 古文・漢文

2014年センター試験（古文・漢文）の傾向

2013年のセンター試験（古文・漢文）も、ここ数年の傾向通り、一層の長文化、難化の傾向を示している。漢文は17字減少してはいるものの、設問数は8問と過去最高であり、受験生にとっては負担増の印象がある。また、新傾向の問題も随所にみられる。たとえば古文の間8、漢文の間4などがそうであるが、この傾向も、2014年に引き継がれるであろう。従って、従来あまり出題されなかった領域、たとえば漢字の読み方や簡単な文学史などにも、気配りをしておいた方がよい。何にしる、思いがけない方向から弾丸が飛んで来る可能性大であるから、心の準備だけは怠らないようにしたい。

古文の学習

問題が難化すればするほど、問2の文法問題のような、暗記・知識で解ける設問は落とせなくなる。あと1年、助動詞・敬語・助詞・副詞の呼応などの基礎知識を固め、文法的な識別問題などに習熟しておくことが必要である。また、内容把握など、暗記や知識で対応できない部分の対策も必要である。他の教科との兼ね合いもあるが、できれば、短か目でストーリー性のある作品、たとえば『竹取物語』、あるいは『平家物語』『徒然草』や説話集などの面白そうな章段でよいから、ある程度の長文を読んでみて、古文を読む勘所のようなものを養っておくとよい。あと1ヶ月なら勧められない、一見悠長な手ではあるが、センター試験まであと1年以上ある2年生になら、確実に力の付く方法としてお勧めしたい。

漢文の学習

漢文は、そもそも古代中国語なのだから、学習の基本は英語のそれに近い。ただ、英単語に当たる漢単語は、それほど膨大な暗記が必要なわけではない。なぜならば、その漢字を含むいくつかの二字熟語の意味が思い出せれば、漢単語の意味はそこから類推できるのである。従って、たとえば現代文の問題を解いたり、日常新聞や小説を読んだりする時に、「漢文の問題を解く時に使えるかもしれない」という意識を持って、より多くの二字熟語を収集しておくように努めればよいのである。むしろ、これから積極的に進めてゆくべきことは、句形や再読文字を中心にした漢文法の整理であろう。今年お問題の間5や問7は明らかな句形、訓読の問題であったが、実は問2なども句形や文法で追い詰められる問題なのである。この3問で全体の3分の1以上の点数が確保できるのであるから、得点システムのベースとしては極めて重要であるといえる。

全体のまとめ

要は難しい文脈や心情の理解、内容把握の問題でも、それが「文学」の出題ではなく、「国語」の出題である以上、何らかの語法や文法の裏付けがあるということを肝に銘じておくことである。過去問を解く時や模試に臨む時も、「正解した」「駄目だった」と一喜一憂するだけではなく、この傍線部は、この空欄は、どの単語、どの文法事項から攻めて行ったらよいのかを、自覚しながら解いてみることである。市進予備校には、そんな現役生の力になることができる実績と経験があるので、遠慮なく声を掛けてほしい。